

エイジング・イン・プレイスに資する 生活支援に関する研究

平成30年5月30日
国土交通政策研究所
石井 義之

- 「エイジング・イン・プレイス」
研究全体の概要
- 外出に関する実証実験と調査結果
- まとめ

「エイジング・イン・プレイス」とは

「高齢者の自宅・地域にとどまりたいという根源的な願いに応え、虚弱化にもかかわらず、高齢者が尊厳をもって自立して自宅・地域で暮らすことをいう。施設への安易な入所を避けるために注目されてきた概念であり、施設入所を遅らせたり、避ける効果がある」

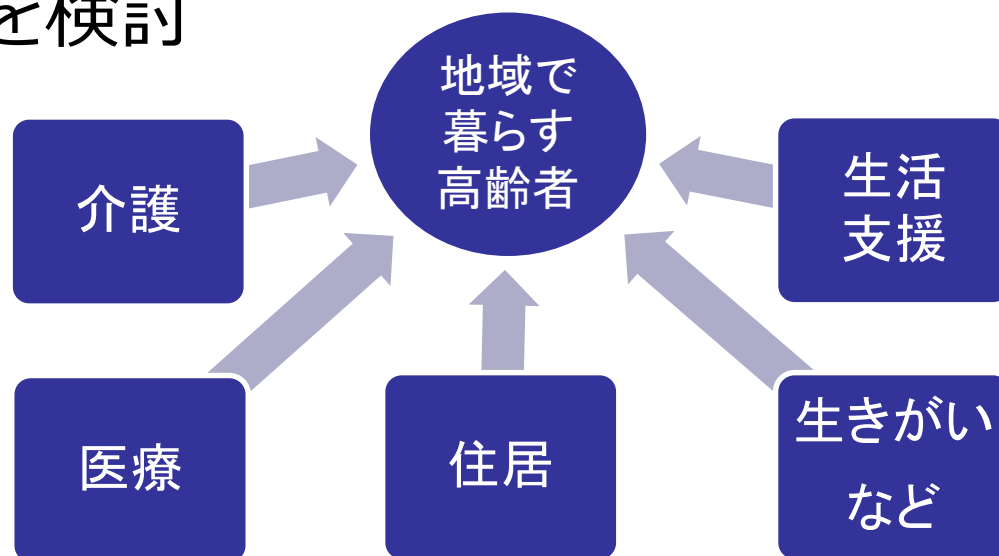
※松岡洋子(2011) 「エイジング・イン・プレイス（地域居住）と高齢者住宅」による

今後、大都市郊外の団地などでも急速な高齢化が予測される中、以下の対策が急務

- エイジング・イン・プレイスの実現に向けて必要な生活支援の将来像の検討

（公的な制度以外の支援として、何が必要なのか）

- 地域の互助や事業者による生活支援の役割・可能性を検討



研究の対象

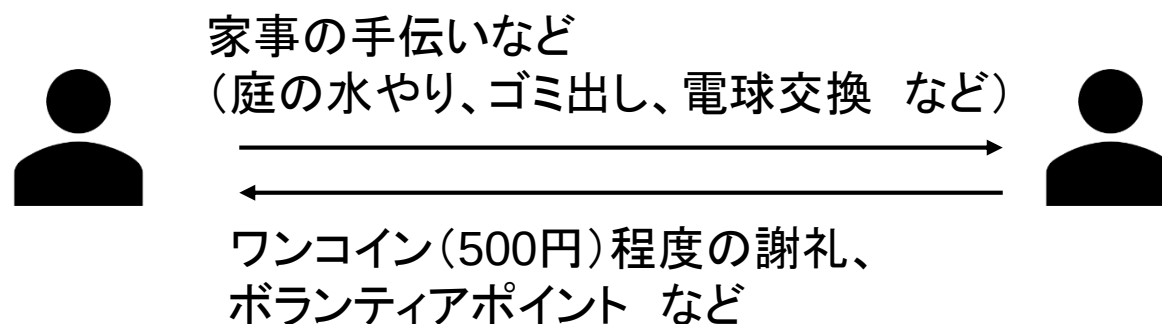
特に大都市郊外の団地を対象
(今後急速な高齢化が推測される地域)

- 地域における互助
- 事業者による生活支援

これらの事例研究・実証実験を行い、検討を行う

地域で行われている互助の取組

● 生活支援（主に家事支援）



● 買物支援（買物困難の克服）

- ・地域住民などの主催による「市」の実施
- ・元気な住民による購入品の運搬
- ・買物先がなくなったことにより、
食事がとれなくなった人向けに
配食サービスの実施

地域で行われている互助の取組

● 外出支援

- ・外出時の付き添い
- ・事業者による有償サービスが困難な地域での輸送サービス
- ・サロン・地域の居場所などへの送り迎え など

● 地域内の移動の支援

団地内を走る自転車タクシー（館ヶ丘団地）

団地の自治会を中心に、住民や地域の相談室スタッフ、近隣の学校の学生等により高齢者の移動を支援

事業者による生活支援

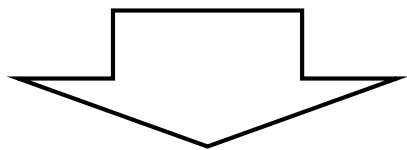
- 家事支援
- 買物支援（移動販売など）
- 外出支援 ← 本発表で紹介する事例

都市郊外における 事業者による出歩き促進の取組

～実証実験と住民へのアンケート調査～

事業者が生活支援を実施

- コミュニティ型のサービスステーションを設置
- 買物サポート、家事サポート・見守り
- お買物便（店舗で購入したものの配送）



「出歩き促進支援サービス」の構想

- 外出の付き添い
- お出かけ場所への送迎
- 出歩く目的の提供

実証実験・調査の実施

実証実験の結果

- ・ 16回実施、39名が利用
- ・ 平均年齢 78.5歳

利用者の感想

- ・ 家から出にくい人には良い
- ・ 付き添いというよりお話ししながらわいわい楽しく行動するのが嬉しかった
- ・ たくさん買物ができて良かった
- ・ いつもと違うイベントで楽しかった

出歩きを促進すべき理由

外出頻度が低い人に関する指摘（古達・武政,2007）

- ・ 外出頻度とADL（Activities of daily living;日常生活活動）自立度、生活機能に正の相関
- ・ 外出頻度と、QOL（Quality of life）のうち身体的・精神的健康感の多くで正の相関

閉じこもりと孤立は健康状態（生活機能）の悪化と関係（日本保健情報コンソシウム,2015）

→閉じこもり・孤立と、健康状態の悪化に正の相関

上記から、外出頻度の低い高齢者の心身のケアに加え、孤立予防の必要性が指摘できる

実証実験に併せ、住民を対象にアンケート

目的

- ・適切な外出支援・生活支援サービスを検討するためのニーズ把握
- ・元気に活動している人、生活に不安を抱えている人の特徴をつかむ



暮らしの安心・安全のため
健康的な生活の獲得のため

必要な支援の検討に資する

内容

- ・現在の外出の状況、外出の際に困っていること
- ・必要としている生活支援の内容
- ・地域の活動などへの参加状況、地域とのつながりの状況

→本報告では、外出に関連する結果について報告

- 調査票を各戸に配布し、回答者本人の自記により回答を得た
- 主な質問項目
 - ・ 回答者の属性（性別、年齢、住居の状況など）
 - ・ 外出に関する現状（日ごろの外出先、手段 など）
 - ・ 外出に関する要望（外出時の困りごと、手段があれば出歩いてみたい場所 など）
 - ・ 生活支援に関する要望（必要な生活支援 など）
 - ・ 地域活動の状況（参加している活動 など）

調査の概要

【調査対象地域】

大都市郊外に所在する、歩車分離の集合住宅団地

【配布時期】

平成29年10月

【配布先・方法】

2,250軒に戸別配布

【回収時期・方法】

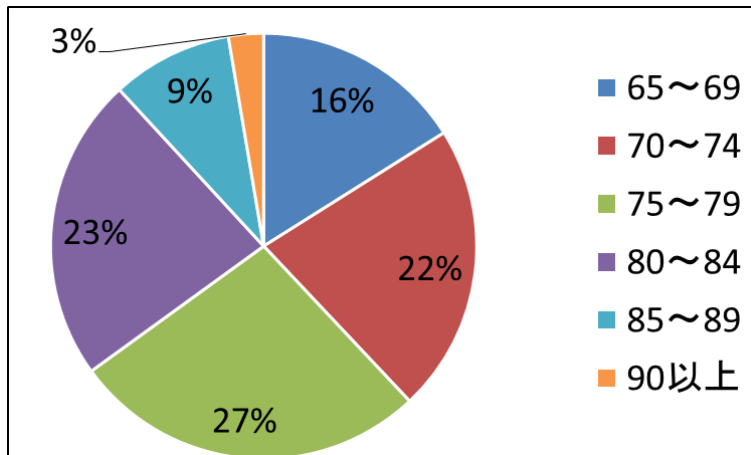
平成29年11月中に、郵便での返送を依頼

【回収数（有効回収）】

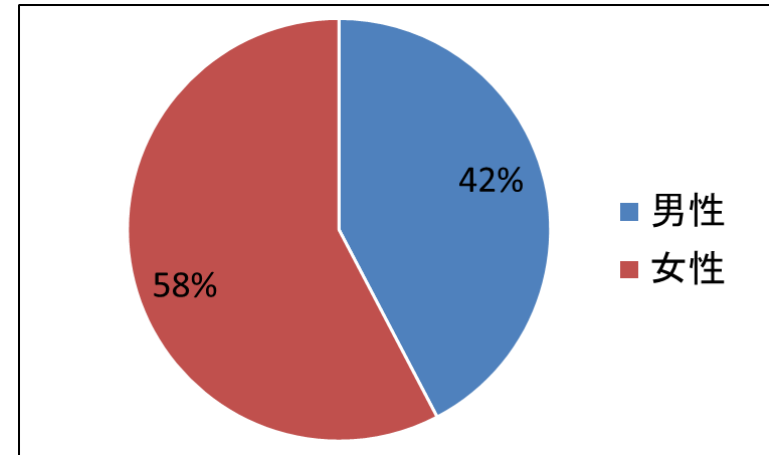
908件（回収率40.4%）

回答者の属性

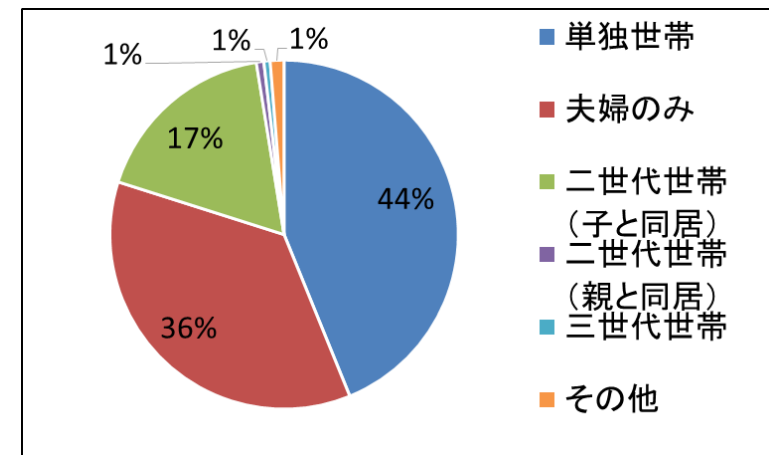
・年齢層



・性別



・家族構成



- ・ 外出に関する調査結果

- 要介護度による状況の違い

- 年齢による状況の違い

- 外出を困難にしている要因

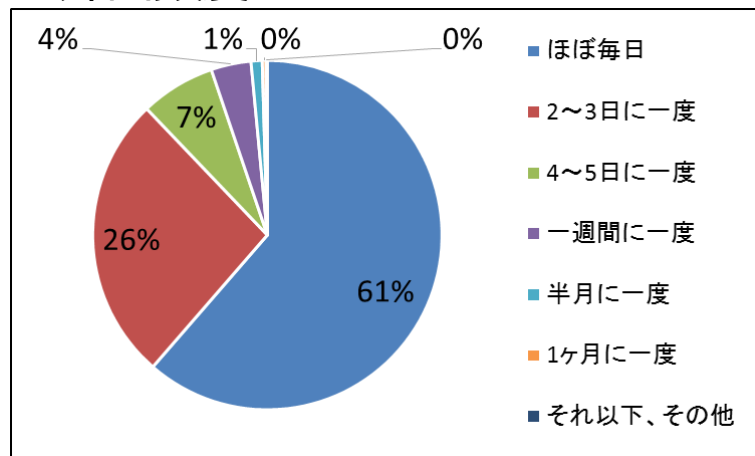
- 出かけない理由

- ・ 地域活動への参加の状況

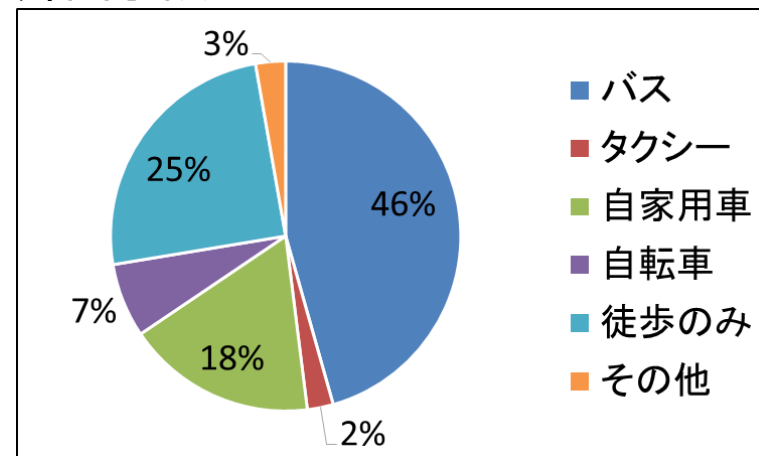
- ・ 住民に求められている場所や活動

外出に関する調査結果

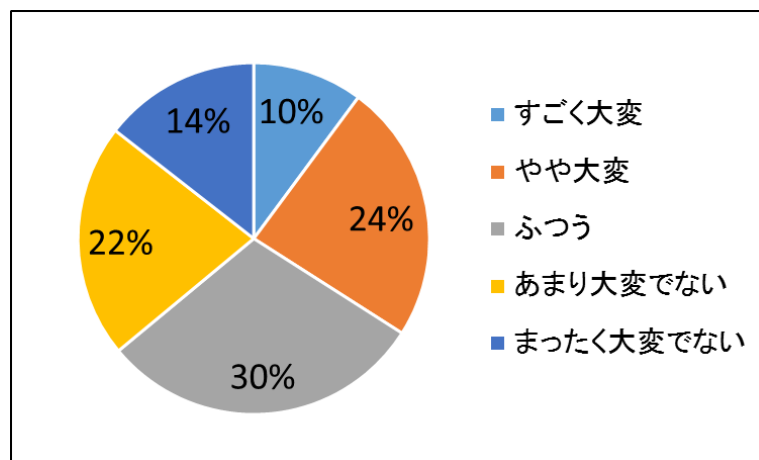
・外出頻度



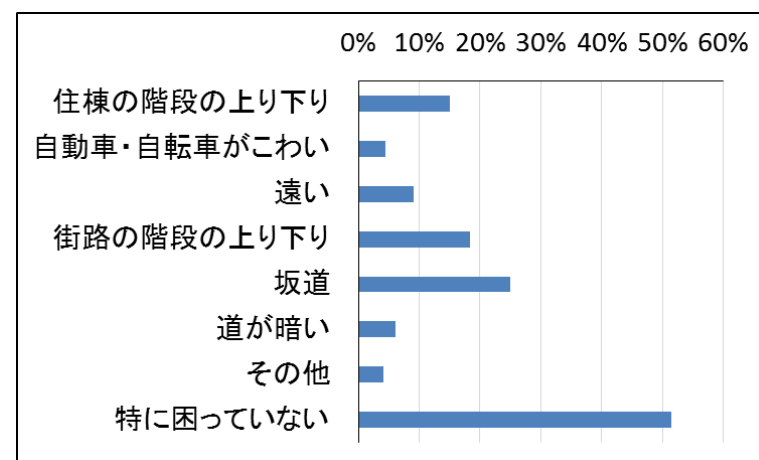
・外出手段



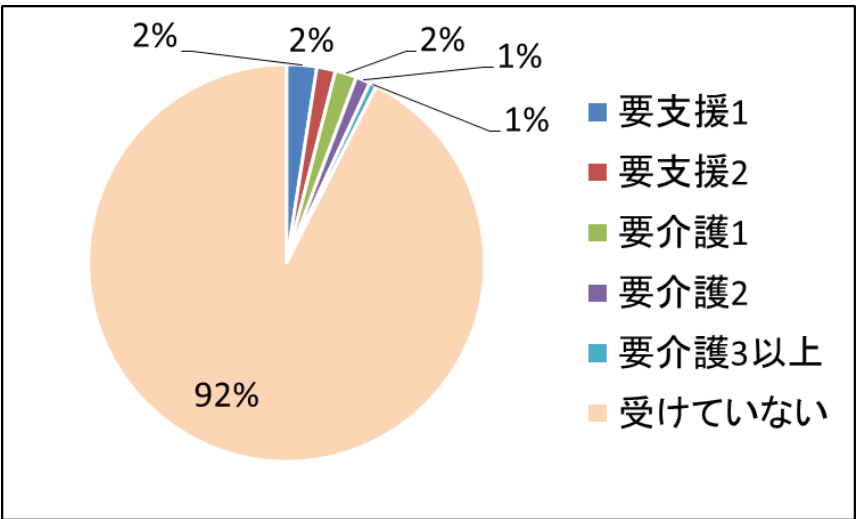
・外出（日頃の買物）をどう感じているか



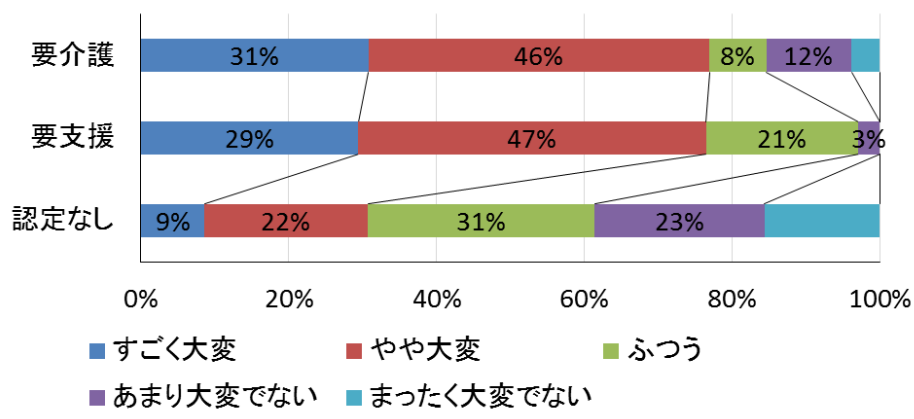
・外出の困りごと



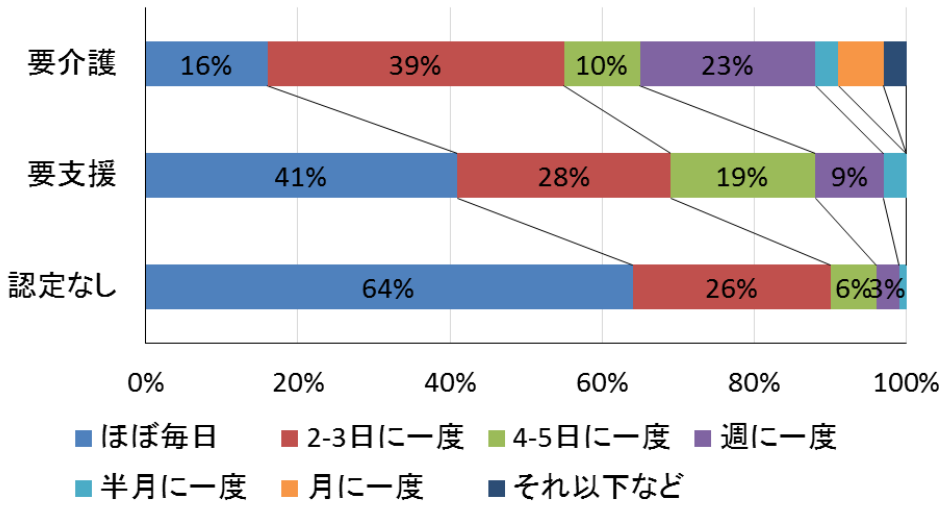
要介護度による状況の違い



・外出（日頃の買物）をどう感じているか

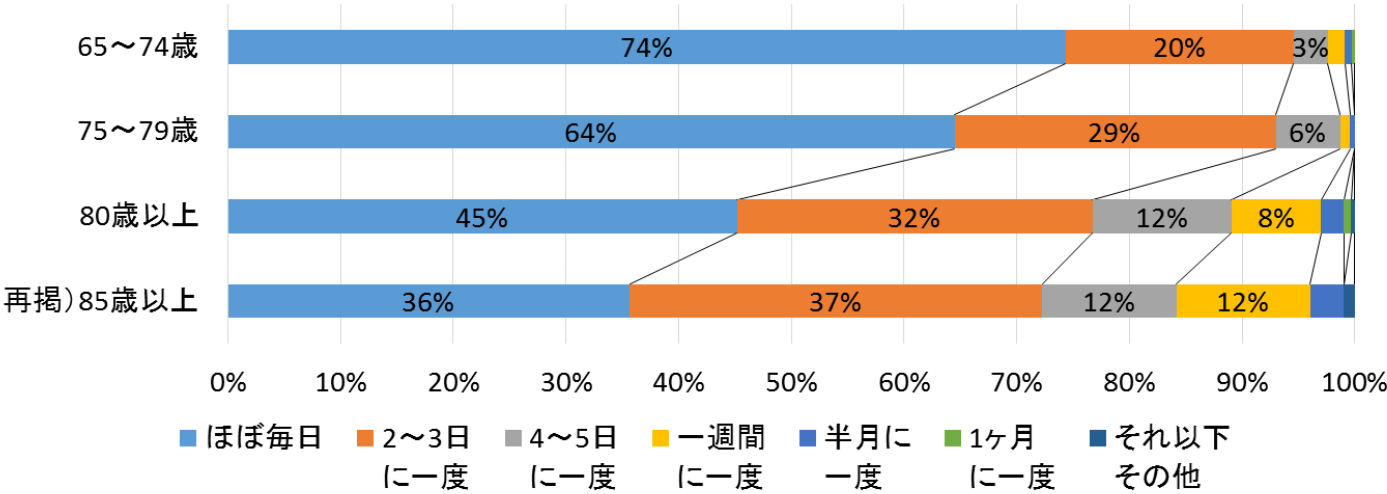


・外出頻度

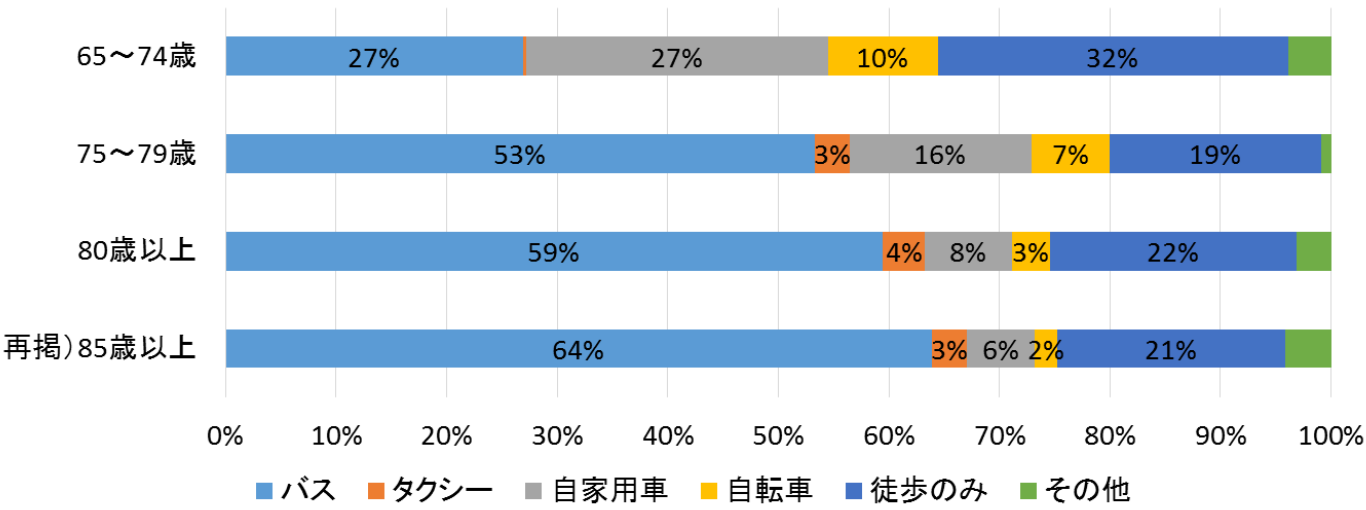


年齢による外出状況の違い

・ 外出頻度

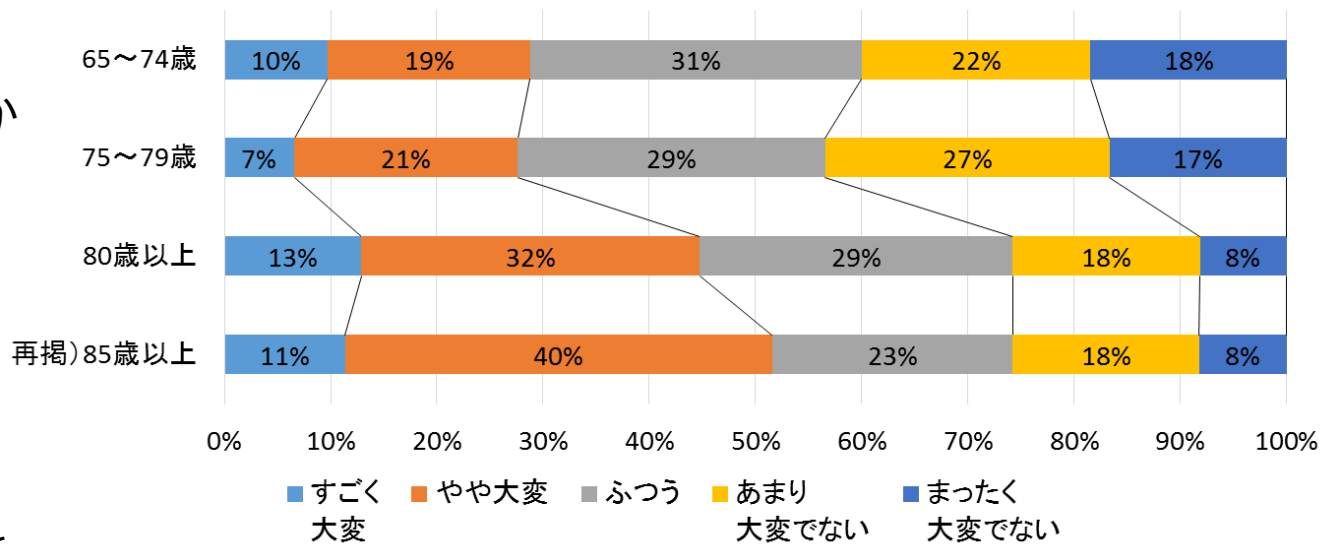


・ 主な外出手段

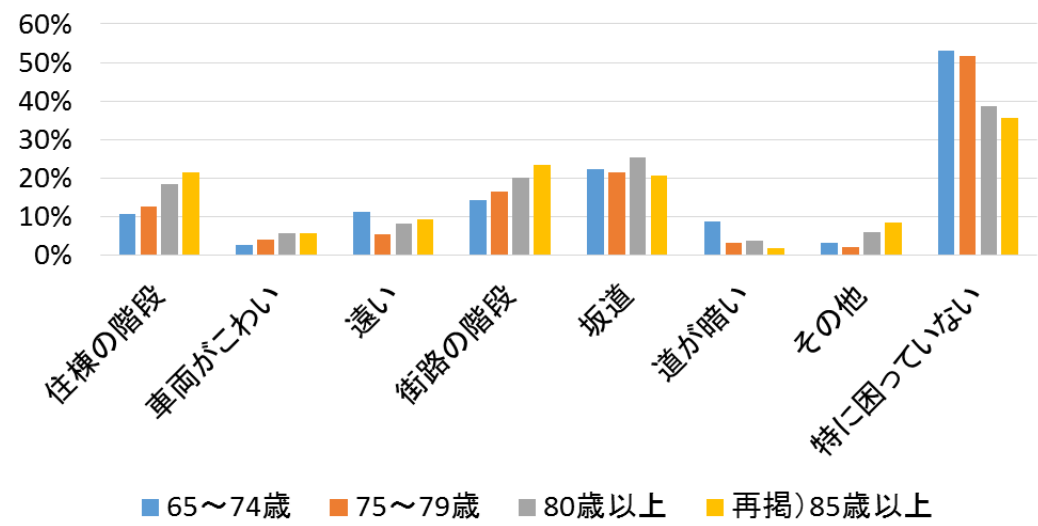


外出を困難にしている要因

・ 外出（日頃の買物）
をどう感じているか

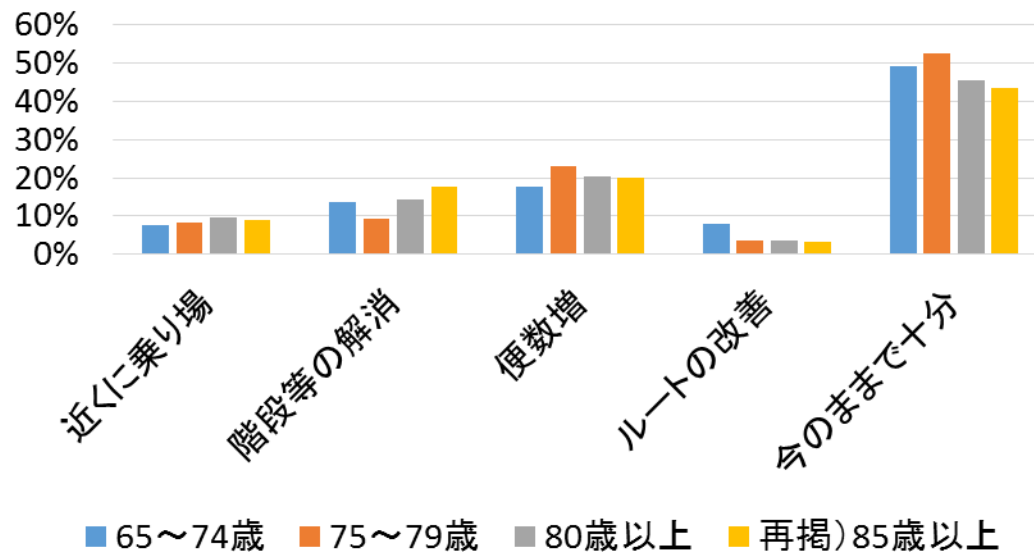


・ 外出の際の困りごと



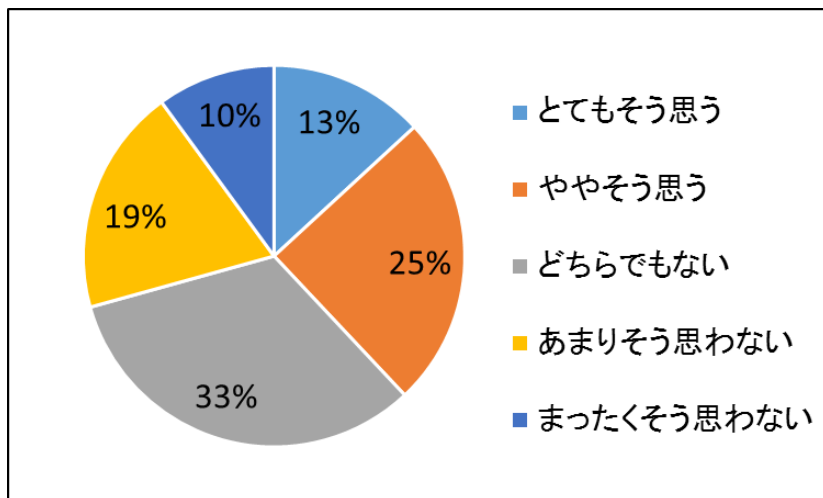
外出を困難にしている要因

・公共交通に関する要望



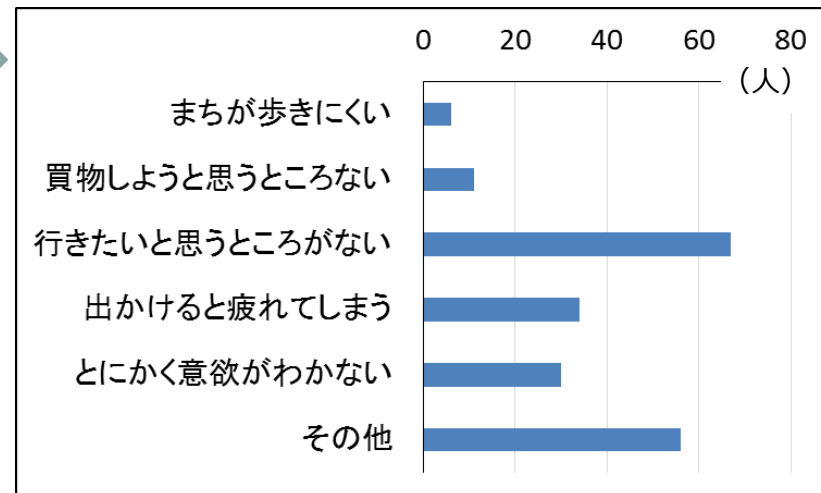
出かけない理由は何か

- ・ 支援があれば積極的に出かけるか



「そう思わない」方に更に質問

- ・ なぜ出かけようと思わないのか



「その他」の意見

- ・ 人に迷惑をかけたくない
- ・ 目的があれば何とかできる など

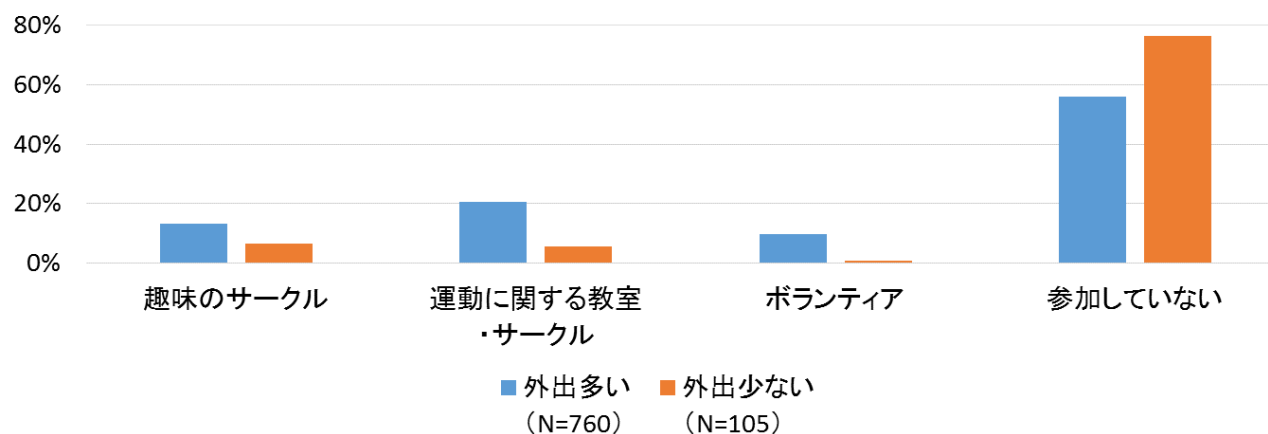
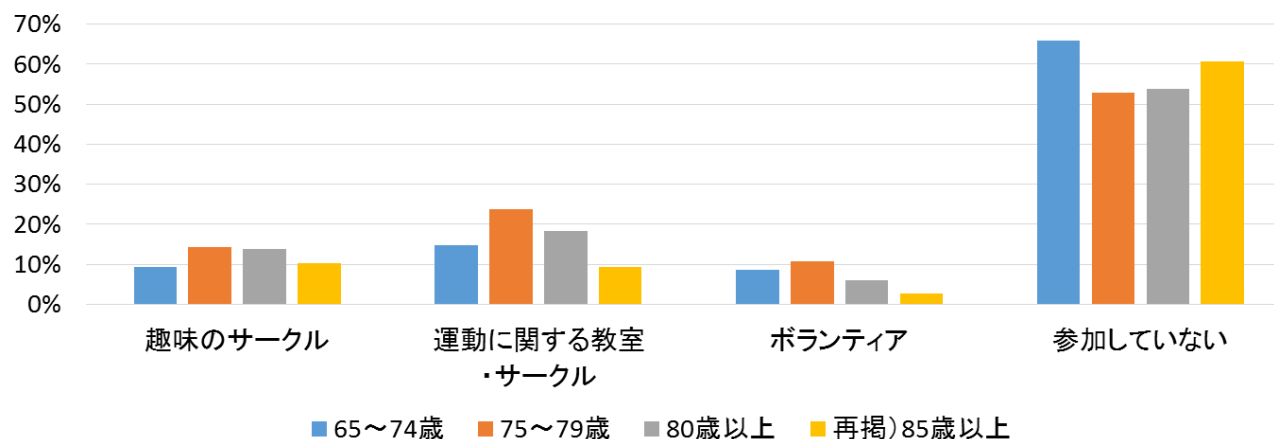
外出に関する調査結果

ここまでのまとめ

- ・ 外出頻度は加齢に伴って低下する
- ・ 年齢が上がると、自家用車からバス移動に移行していると考えられる
- ・ 80歳以上になると、自家用車を手放す人も多い
- ・ 70歳代までの方は、外出を苦にしていない方が多いが、80歳代以上では、階段等によって外出が困難になってくる
- ・ 外出しない理由として、「行く場所がない」人も少なくない

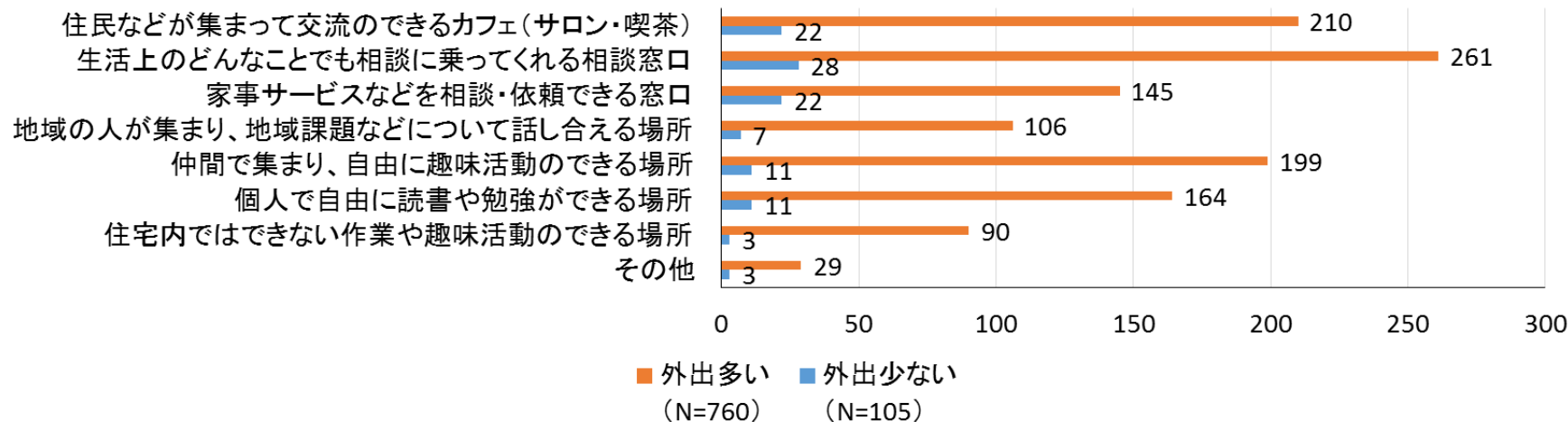
地域活動への参加の状況

・年齢や外出の状況との関連

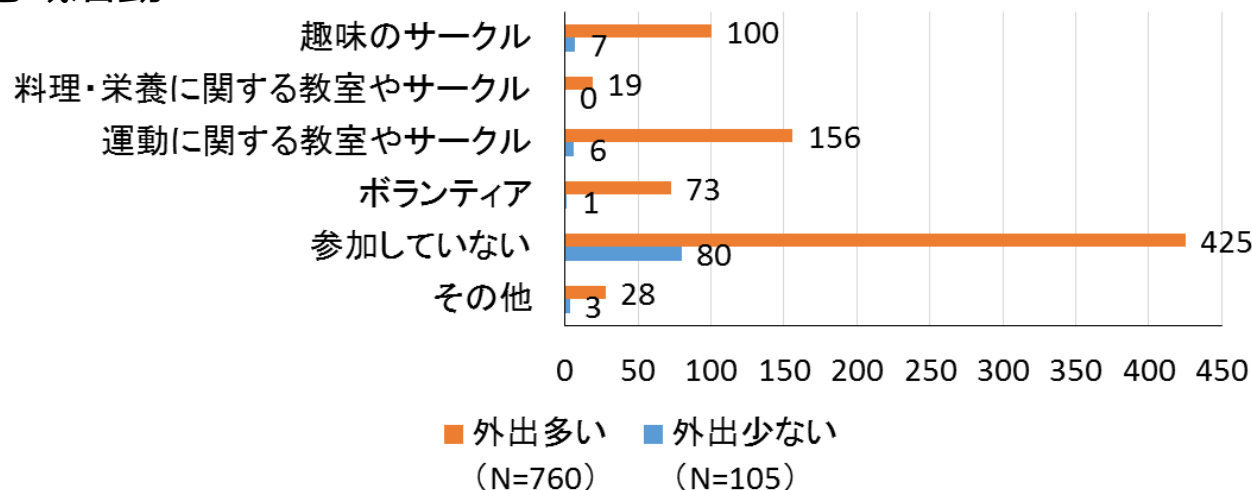


地域で住民に求められている場所や活動

・「気軽に立ち寄りたい」場所



・参加している地域活動



- ・ 80歳以上では外出頻度が減少
 …階段（住棟・街路）の昇降に不安のある人が増加



今後、後期高齢者が急増することから、対策が急務

- ・ 外出頻度の低い人は地域活動の参加も少ない
 …閉じこもりに加え、地域からの孤立も生じる



生活機能の低下や、健康状態の悪化との関連も指摘されており、外出機会を増やす支援が必要

- 地域で元気に暮らし続けるためには、外出支援（移動支援・「行きたくなる」活動などの場所づくり）が必要
- この他にも、エイジング・イン・プレイスの実現のため、
生活支援（家事など）
買物支援（移動販売など）
についても取組が必要

→ 今後の検討事項